



## sFlow コマンド

---

この章は、次の項で構成されています。

- [sflow receiver](#) (2 ページ)
- [sflow flow-sampling](#) (3 ページ)
- [sflow counters-sampling](#) (4 ページ)
- [clear sflow statistics](#) (5 ページ)
- [show sflow configuration](#) (6 ページ)
- [sflow receiver source-interface](#) (7 ページ)
- [sflow receiver source-interface-ipv6](#) (8 ページ)

## sflow receiver

sFlow コレクタを定義するには、**sflow receiver** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。コレクタの定義を削除するには、このコマンドの**no**形式を使用します。

### 構文

```
sflow receiver index {ipv4-address | ipv6-address | hostname} [port port] [max-datagram-size bytes]
```

```
no sflow receiver index
```

### パラメータ

- **index** : 受信者のインデックス。(範囲 : 1 ~ 8)
- **ipv4-address** : sFlow コレクタとして使用されるホストの IPv4 アドレス。
- **ipv6-address** : sFlow コレクタとして使用されるホストの IPv6 アドレス。IPv6 アドレスがリンクローカルアドレス (IPv6Z アドレス) である場合、発信インターフェイス名を指定する必要があります。インターフェイス名の構文については、「ユーザガイドライン」を参照してください。
- **hostname** : sFlow コレクタとして使用されるホストのホスト名。
- **port** : (オプション) sFlow メッセージのポート番号。指定しない場合、ポート番号はデフォルトの 6343 になります。範囲は 1 ~ 65535 です。
- **bytes** : (オプション) 送信可能な最大データグラムサイズを指定します。指定しない場合は、デフォルトで 1400 が設定されます。

### デフォルト

受信者が定義されていません。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

sFlow レシーバの IP アドレスを 0.0.0.0 に設定した場合、sFlow データグラムは送信されません。

# sflow flow-sampling

sFlow フローサンプリングを有効にし、特定のポートの平均サンプリングレートを設定するには、**sflow flow-sampling** インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。フローサンプリングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

## 構文

**sflow flow-sampling** *rate receiver-index [max-header-size bytes]*

**no sflow flow-sampling**

## パラメータ

**rate** : 平均サンプリングレートを指定します。サンプリングレートは、1/レートとして計算されます (範囲 : 1024 ~ 1073741823)。

**receiver-index** : レシーバ/コレクタのインデックス (範囲 : 1 ~ 8)。

**max-header-size bytes** : (オプション) サンプリングされたパケットからコピーされる最大バイト数を指定します。指定しない場合は、デフォルトで 128 が設定されます。(範囲 : 20 ~ 256)。

## デフォルト

無効

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## 使用上のガイドライン

インターフェイスのサンプリングレートを設定します。サンプリングレートは、1/レート (コマンドで指定された値) として計算されます。

デバイスには最大3つのレートを設定できます。同じレートを複数のインターフェイスに設定でき、それは単一のレートと見なされます。3つを超えるレートが設定されている場合、コマンドは拒否されます。

sFlow サンプリングは、モニターセッションの送信元インターフェイスとして設定されたインターフェイスでは有効にできません。

新しいサンプリングレート設定は、ハードウェアにすぐにはロードされません。次のパケットが (現在のサンプリングレートに基づいて) サンプリングされた後にのみ、ハードウェアにロードされます。

## sflow counters-sampling

sFlow カウンタのサンプリングを有効にし、特定のポートの最大間隔を設定するには、**sflow counters-sampling** インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。sFlow カウンタのサンプリングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### 構文

**sflow counters-sampling** *interval receiver-index*

**no sflow counters-sampling**

### パラメータ

**interval** : インターフェイスカウンタの連続するサンプル間の最大秒数を指定します。(範囲 : 15 ~ 86400)

**receiver-index** : 受信者/コレクタのインデックス。(範囲 : 1 ~ 8)

### デフォルト

無効

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## clear sflow statistics

sFlow 統計情報をクリアするには、**clear sFlow statistics** 特権 EXEC モードコマンドを使用します。

### 構文

```
clear sflow statistics [interface-id]
```

### パラメータ

**interface-id** : (オプション) インターフェイス ID を指定します。インターフェイス ID はイーサネット ポートである必要があります。

### コマンド モード

特権 EXEC モード

### 使用上のガイドライン

ユーザがインターフェイスを指定しない場合、このコマンドはすべての sFlow 統計情報カウンタ (送信されたデータグラムを含む) をクリアします。ユーザがインターフェイスを指定した場合、このコマンドは特定のインターフェイスのカウンタのみをクリアします。

# show sflow configuration

フローサンプリングまたはカウンタサンプリングが有効になっているポートの sFlow 設定を表示するには、**show sflow configuration** 特権 EXEC モードコマンドを使用します。

## 構文

**show sflow configuration** [*interface-id*]

## パラメータ

**interface-id** : (オプション) インターフェイス ID を指定します。インターフェイス ID はイーサネット ポートである必要があります。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## 例

```
switchxxxxxx# show sflow configuration
sFlow Agent Address 172.16.1.1
Receivers
-----
Index      IP Address      Port      Max Datagram Size
-----
1          0.0.0.0         6343      1400
2          172.16.1.2     6343      1400
3          0.0.0.0         6343      1400
4          0.0.0.0         6343      1400
5          0.0.0.0         6343      1400
6          0.0.0.0         6343      1400
7          0.0.0.0         6343      1400
8          0.0.0.0         6343      1400
Interfaces
Inter- Flow      Counters Max Header  Flow      Counters Collector
face  Sampling      Sampling Size      Collector Index  Index
-----
g11/0/1  1/2048      60 sec  128      1          1
g11/0/2  1/4096      Disabled 128      0          2
Global values
-----
Source IPv4 interface: vlan 120
Source IPv6 interface: vlan 10
```

# sflow receiver source-interface

IPv4 アドレスが sFlow 受信者との通信に送信元 IPv4 アドレスとして使用される送信元インターフェイスを指定するには、**sflow receiver source-interface** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

## 構文

**sflow receiver source-interface** *interface-id*

**no sflow receiver source-interface**

## パラメータ

- *interface-id* : 送信元インターフェイスを指定します。

## デフォルト設定

送信元 IPv4 アドレスは、発信インターフェイスで定義され、ネクスト ホップ IPv4 サブネットに属する IPv4 アドレスです。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## 使用上のガイドライン

送信元インターフェイスが発信インターフェイスの場合は、ネクスト ホップ IPv4 サブネットに属するインターフェイス IP アドレスが適用されます。

送信元インターフェイスが発信インターフェイスでない場合は、送信元インターフェイスで定義された最小 IPv4 アドレスが適用されます。

使用可能な IPv4 送信元アドレスがない場合は、IPv4 sFlow サーバとの通信を試行する際に SYSLOG メッセージが発行されます。

## 例

次の例では、VLAN 10 を送信元インターフェイスとして設定します。

```
switchxxxxxx(config)# sflow receiver source-interface vlan 100
```

## sflow receiver source-interface-ipv6

IPv6 アドレスを IPv6 sFlow 受信者との通信の送信元 IPv6 アドレスとして使用する送信元インターフェイスを指定するには、**sflow receiver source-interface-ipv6** グローバルコンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### 構文

```
sflow receiver source-interface-ipv6 interface-id
```

```
no sflow receiver source-interface-ipv6
```

### パラメータ

- *interface-id* : 送信元インターフェイスを指定します。

### デフォルト設定

IPv6 送信元アドレスは、発信インターフェイスで定義された IPv6 アドレスであり、RFC6724 に従って選択されます。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### 使用上のガイドライン

送信元インターフェイスが発信インターフェイスである場合は、送信元 IPv6 アドレスはインターフェイスで定義され、RFC 6724 に従って選択された IPv6 アドレスです。

送信元インターフェイスが発信インターフェイスでない場合は、送信元 IPv6 アドレスは送信元インターフェイス上で定義され、宛先 IPv6 アドレスの範囲と一致します。

使用可能な送信元 IPv6 アドレスがない場合に IPv6 sFlow 受信者との通信を試行すると、SYSLOG メッセージが発行されます。

### 例

次の例では、VLAN 10 を送信元インターフェイスとして設定します。

```
switchxxxxxx(config)# sflow receiver source-interface-ipv6 vlan 100
```

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。